

座長へのご案内

- 座長の方は、セッション開始 15 分前までに各会場へお越しのうえ、進行係に声を掛けてください。
- 発表時間、質疑応答時間を厳守し、円滑な運営にご協力をお願いいたします。

口演発表者へのご案内

■発表言語

- シンポジウム：英語
- 一般口演：英語

(英語発表が困難な場合は E-メールでその理由を明記の上、大会事務局までご連絡ください)

※シンポジウム、一般口演とも、討論は英語・日本語どちらでも結構です。

■発表時間

- シンポジウムは座長の指示に従ってください。
- 一般口演は発表 10 分、討論 5 分です。(座長の指示に従ってください)

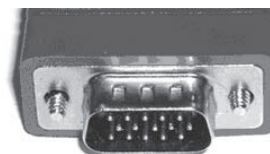
■発表は各自お持込みの PC を使用した PC プレゼンテーションに限ります

- 本大会の発表は、PC プレゼンテーションに限らせて頂きます。各自ノートパソコンをご用意ください。
- Windows XP、Windows Vista または Mac OS8.5 以上が動作し、外部モニター出力端子を備えた PC を使用してください。
- SONY の VAIO、Mac 等、モニター出力端子の形状が特殊な機種をご使用の場合は、D-sub15 ピン用変換アダプターを持参してください。
- バッテリー切れに備え、必ず発表会場に AC アダプターをご持参ください。
- 発表中にスクリーンセ이버や省電力モードにならないように設定してください。
- 発表の 60 分前までに PC センター (A 会場 [センチュリーホール] 前のホワイエ) にて出力チェックしてください。
- 発表の 30 分前までに、PC オペレーターデスク (発表会場内、前方向かって左端) へ、ご自身のノートパソコンを提出ください。
- 発表時の操作は、演壇上のモニターとリモートマウスを用いて、発表者自身が行います。
- 演壇上には時計機をご用意いたしますので、時間内に完結できるようご協力ください。
- プレゼンテーションデータに静止画・動画・グラフ等のデータをリンクさせている場合は、そのデータも必ず保存していただき、事前に動作確認を行ってください。
- 発表に際し、音声の利用はできません。必要な場合は事前に事務局へ御連絡ください。
- 発表終了後、ご自身の PC を PC オペレーターデスクよりお引取りください。

〈D-sub15 ピン〉



PC側のコネクタ図



接続するケーブル

ポスター発表者へのご案内

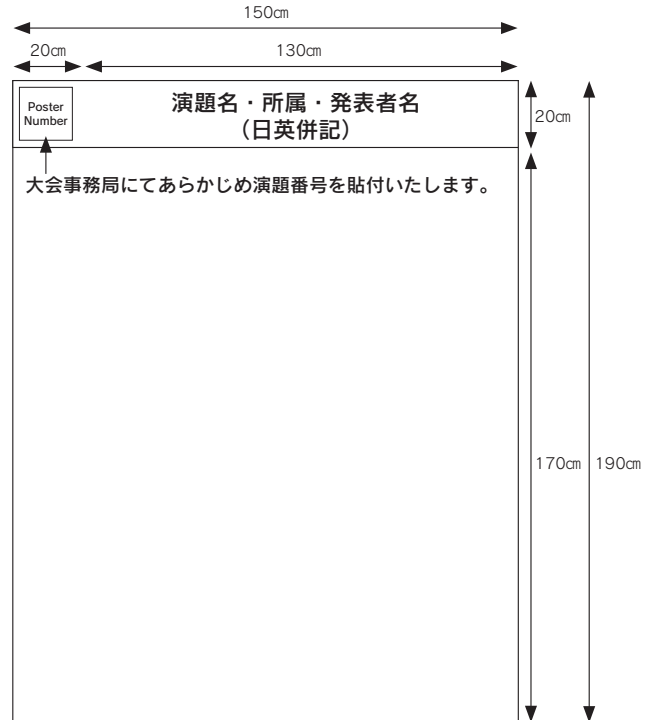
ポスター会場：イベントホール [1号館1階] および白鳥ホール [4号館1階]

【ポスター作成方法】

- ポスターは、貼付パネルのスペース内におさまるように作成してください。貼付パネルのサイズは、右図を参照してください。
- 演題名、所属、発表者名は、**英語・日本語併記**でご準備いただき、ポスター貼付スペースの上端部に貼付してください。
- ポスターの発表内容（図・説明）は、**すべて英語**で作成してください。

【発表方法】

- まず各会場の入口前のポスター受付にて受付をお願いいたします。
- ポスターは、ご自身の演題番号の位置に、時間内にご自身で貼り付けてください。演題番号は、あらかじめ貼付パネルに表示してあります。演題番号をよくご確認ください。
- 貼付に必要な画鋏は事務局でご用意いたします。糊・セロテープは使用できません。
- 発表者の方には、ポスター受付でリボンをお渡しします。討論の際には胸につけ、下記の説明・討論時間中は各ポスターパネルの前で参加者の質疑に応じてください（座長による進行ではございません）。
- ポスターは、毎日貼り替えとなります。ポスター撤去にご協力いただきますよう、お願いいたします。なお、撤去時間後も貼付されているポスターは事務局で即日処分させていただきますのでご了承ください。



日程	貼付け時間	演題番号	説明・討論	撤去時間
9月16日（水）	8：00～8：30	奇数	11：00～12：00	17：00～17：30
		偶数	13：00～14：00	
9月17日（木）		奇数	11：00～12：00	
		偶数	13：00～14：00	
9月18日（金）		奇数	11：00～12：00	
		偶数	13：00～14：00	

発表資料の配色についてのお願い

日本人男性の5%（約300万人）、白人男性の約8%は、赤や緑の混じった特定の範囲の色について、差を感じにくいという視覚特性を持っています。発表資料作成の際は以下の点にご配慮いただきますよう、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

1. 2重染色やDNAチップの画像は、緑と赤ではなく緑と赤紫（マゼンタ）で表示する。
2. 3重以上の染色は、全色の重ね合わせだけでなく重要な2色だけの組み合わせも緑と赤紫で表示する。（あるいは各チャンネルの図を別々に表示する。）
3. グラフや解説図では、離れた2ヵ所の色を照合するのが非常に難しいので、色分けされた各項目の内容や凡例で示すのではなく、図中に直接書き込む。また各項目は、色だけでなく線種やシンボルの形、網掛け（ハッチング）などでも区別する。
4. 赤は鮮やかな明るい色に見えないので、暗い背景に赤文字を使わない。また、青い細やかな文字は色覚にかかわらず非常に読みづらい。なるべく白や黄色、オレンジ等を使う。

詳しくは <http://www.nig.ac.jp/color/> をご覧ください。